

学力向上のための授業改善推進プラン・昭島市立武蔵野小学校

5年

教科	本校児童の学力の実態	実態から身につけさせたい「確かな学力」	学年で取り組む具体的な方策	評価
国語	○読書をすすんで行う児童が多い。 ○物語文では登場人物の気持ちを読み取り、意欲的に学習に取り組むことができる。 ▲書く内容では文章を論理的に順序立てて書ける児童とそうでない児童とに二極化している。 ▲言語事項では言葉の正しい使い方は比較的定着しているものの、新出漢字についてはきちんと正しく覚え、読み書きのできる児童が半数以下である。	論理的に書きたい事柄を順序立てて書く力 習った言語や漢字を文章に取り入れる力 叙述をもとにして、筆者や作者の意図を読み取る読解力	・ワークシートを活用し、教科書本文から要点を読み取る学習を意図的に多く取り組み、読解力の向上を図る。 ・日記指導や日々の学習において、書く活動を多く取り入れ、書くことに慣れさせていく。	
社会	○地理的な内容について興味をもち、意欲的に授業に取り組むことができる。 ▲資料の読み取り方の理解がまだ不十分で、テストでの間違いも目立つ児童。 ▲地名や新しく覚える名称など、暗記すべき項目については定着が見られない児童。	資料を読み取り、考えや想像を広げる力 新しく習う言葉を知識・理解として正しく覚え、活用する力	・教科書や関連資料を配布し、多くのグラフや表から気付いたことや分かることを読み取る学習を意図的に行っていく。 ・学んだことの振り返りを毎時間書かせる。	
算数	○意欲的に授業に取り組む、課題を解決しようとする様子が伺える。 ○子供達同士の教え合いができ、分からなかった問題を分かる子が教え、互いに高め合うことができる。 ▲小数のわり算や文章問題を解ける児童とそうでない児童が二極化しており、基礎・基本の定着が課題。	計算問題などを正確に解く力 文章問題の内容を読み取り、正しく問題を解く力	・宿題等で繰り返し計算練習を行う。 ・教え合いの時間を設け、一人一人の学習内容の理解を深める。	
理科	○観察や実験に興味をもち、取り組むことができる。 ▲新しく出会う用語や実験方法など学習の定着に課題がある。 ▲自ら課題意識をもって、問題解決しようとする学習の取り組み方が定着しておらず、主体的に取り組もうとする姿勢に課題が見られる。	身近なことや生活経験を振り返り、実験の予想や仮説を立てる力	・実験前に仮説や予想を立てさせる。 ・実験後に自分の言葉で考察を書かせ、実験の振り返りを行う。	
音楽	○器楽活動に対する興味・関心が高く、学習に意欲的に取り組むことができる。 ▲歌唱活動に対する意欲に差がある。 ▲器楽合奏の経験が乏しい。	・歌声でのびのびと音楽表現できる力 ・様々な楽器を使用する曲を周りと協力してつくり上げていく力	・友達の歌声のよいところを見つけ合う活動を行い、自分の歌声に自信をもたせたり、安心して歌唱表現できる環境をつくったりする。 ・合奏の題材を取り扱う機会を増やしていく。	
図工	○苦手意識をもたず、のびのびと自由に楽しんで表現活動を行うことができる。 ▲定期的な励ましや声掛けがないと、作品への意欲が続かなかったり、分からないことを分からないままにしてしまう児童も見られる。	・作品をよりよくしようと創意工夫していく力 ・話を聞く、理解する、分からないことは質問して解決するなどの学習に向かう力	・じっくり取り組む作品(8時間～)、短時間で完結する作品(2～4時間)のメリハリをつけた課題設定をし、集中力の持続を促していく。 ・鑑賞会をして、お互いの作品を褒めあい、褒めて次回作品への意欲を高める。	
家庭科	○調理実習の活動に意欲的に取り組む。 ○調理器具の名称や正しい使い方を覚えることができた。 ▲知識・理解の定着が難しい。	活動に知識を生かす力 実生活に習った事を生かそうとする力	・活動の中で知識・理解の定着を図るために、様々な活動を児童が主体的になって取り組めるようにする。	
体育	○陸上領域・器械運動領域ではそれぞれが意欲的に取り組むことができる。 ○できる児童が苦手な児童に教え、互いに高め合おうとする姿勢が見られる。 ▲ボール運動領域では、チームで協力して取り組むことが課題となる児童や、勝敗を受け入れ、次へ生かすための切り替えができない児童が見られる。	正しい知識や技能を身に付けようとする力 チームで作戦を立てたり、教え合いができるための対話的な学習ができる力	・様々な運動を取り混ぜる中で、技能ポイントを確認させ、掲示物等で振り返らせる。	